

# BSOの 豆知識

たびたび話題にするこの「相連報」という言葉について、改めて紹介したい。

一般的に言われる「報連相」は、結果報告から始まるものだ。しかし会社という団体が成果を出すためには、情報を共有化して組織的な動きをすることが必要だ。会社の経営方針や現在抱えている問題をすばやく着手し解決するため、BSOでは相談から始まる「相連報」という言葉に置き換えた。

\* \* \* \* \*

相連報の情報は、内容、タイミング、理解時間の3つの要素から満足度を、また受信者と発信者の満足度の食い違いで適否を見る。これがBSOの情報伝達分析の原型である。

このうち、内容は、情報の種類と内容の充足度（逆は「不備度」とか「不完全情報」とかいう）からなる。

情報の種類には、オペレーション（業務）レベル、マネージメント（管理）レベル、ストラテジー（戦略）レベルとがある。オペレーションレベルの情報は、関係者のスキルを上げると共に付加価値を向上させる。マネージメントレベルの情報は、組織力を向上させる。ストラテジーレベルの情報は、付加価値を創造・増殖する。この中でマネージメントレベルの情報は、さらに行動のタイミングと内容の質的タイミングの情報に分かれる。

# 相連報

行動のタイミングのためだけの情報のやり取りは、もはや相連報における最低レベルであり、情報化時代では、意味のないモノという事になるだろう。

\* \* \* \* \*

BSOは相連報を組織的に活用するため、電子掲示板などといったシステム化に成功した。特に電子掲示板では、他人の発言に返事することがポイントである。

特に、自分に対する発言には速やかに返事をする事が重要である。返事がない場合は、「見ていない」、「無言でもって異を唱えている」、「返事をする気がない（無視している）」という受け止め方が出来るだろう。直ぐには返事が出来ない内容の場合にも、ひとまず「見ましたが、即答できないので後でメールします」などの第一報を入れることがせめてもの常識である。自分に関係ないような内容であっても、「拝見しました」、「自分には関係ないようですが、自分としてもこのように受け止めました」などの発言ができる組織が、風土の良い会社である。

誰かが発言をし、他の人がそれを見て返事をする。このように、仲間としての存在性をお互いに発揮して受け止めることが出来る。まさに「相連報」は、日頃の考働によって、うまく会社を切り盛りする画期的なシステムとなるであろう。